

刈谷田川利活用検討委員会通信 vol.5

～市民、新潟県、長岡市、見附市が協働して、刈谷田川ショートカット部の利用構想を検討しています～

編集・発行／新潟県長岡地域振興局(地域整備部計画調整課) 発行日／平成21年11月27日



第5回刈谷田川利活用検討委員会の概要

“維持管理を考えながら、各ゾーンの計画をもっと具体的にしよう”

平成21年10月28日(水) 19:00～ 長岡市中之島公民館

第4回の検討委員会では、委員の皆さん全員が賛同したかたちでゾーニング計画がまとまりました。今回は、その内容をもう一度確認したうえで、3グループにわかれてワークショップを行いました。

最初に、新潟県(長岡地域振興局)から、この段階の計画をもとにした基盤整備の範囲や工事費の積算についての説明を行いました。検討委員会では、あまり予算の制限を気にせず、地域の思いとして計画づくりをすることを前提としました。

この検討委員会も終盤をむかえようとしているなか、皆さんの関心が高まった。会館(仮称)の中身を中心に、地域参加型の維持管理を目指して検討を進めました。



■プログラムと参加者

◆第5回利活用検討委員会のプログラム: ①開会のあいさつ / ②前回のおさらい(決定したゾーニング計画の確認) / ③進め方の説明 / ④基盤整備の範囲と予算の説明 / ⑤各ゾーンの計画・維持管理の検討(3班にわかれたワークショップ) / ⑥検討結果の発表・まとめ

◆参加者: 市民委員 14名(長岡市6名・見附市8名) / 新潟県長岡地域振興局 5名、長岡市 2名、見附市 2名
NPO 法人地域交流センター(事務局) 3名 / 長岡新聞(取材) 1名

検討委員会の結果レポート



前回のまとめと確認 (ゾーニングの決定)

前回の「暫定案」から大きな変更はありませんでした。一番の課題となっていた建物の位置決めについても、ショートカット部北側に集めるという結果になりました。ヘリポートについては、防災上の運用規定などから、位置が不確定になっています。多目的広場は、当初のコンセプト(何も無い広い広場)の実現のために、あまり造作物を置かない、三角のゾーンを有効活用する、という方向で検討しました。今町側からアクセス通路については、必要性そのものと近隣住民への配慮(騒音など)について検討すべき課題が残っています。

【前提の整理】基盤整備の範囲と予算について(新潟県より)

- ◆ヘリポート: あえて舗装せずに芝生広場をヘリポートとして位置づけるよう進めたい(市の地域防災計画に位置づけるなどの工夫により)
- ◆整備対象: 県ができるものは、駐車場、駐車場までの進入路、駐車場に付属する施設(フェンス、車止め)、芝生の植栽、築山、木々の植栽、遊歩道、若干の屋外照明。具体的にどこまで整備ができるかは、これから国を含めて協議する予定。
- ◆整備範囲: 予算1億円で試算してみると、敷地全体の芝生、駐車場と進入路、築山(詳細設計費込み)となる。委員会の提案を全部盛り込むと2～3億円くらいの予算になる。様々な制約の中での議論だが、可能な限り具体化に向けて進めたい。予算的にきびしい植栽など、維持管理を含めて、委員の皆さんからぜひ知恵を出してもらいたい。
- ◆議論の前提: 最終的には、すべての結論がでなくても、課題が明確になったこと自体も委員会の成果として取りまとめたい。1億円とはあくまでも目処の話であり、それ以上の可能性がないわけではない。この委員会の中では、「成果を実現していく」という前提で話を進めてもらいたい。(委員会での説明より)



ワークショップの結果
(主な意見・提案)

1 グループ

全体共通の内容

▼トイレ【整】芝生よりトイレの整備を優先したい(当面は仮設でよい) / ▼芝生【整】芝とクローバーを半々で経費削減する / 種まきの方が安くなる / 【維】やってみたら結構楽しいのではないかと / 小学校の行事(親子のふれあい体験教室)で芝刈りをしてはどうか / ヤギに芝を食べてもらう管理方法がある⇒ヤギのふれあい公園にもなる(小学校や保育園で飼育してもらえないだろうか)

森と散策のゾーン

▼植樹【整】市民からの寄付で植樹してはどうか⇒寄付した人の名前プレートをつける⇒プレミアがつくように本数を限定して募集する / モミジ、クヌギ、コナラなど多品種の雑木林にする / どんぐりのような実がなる木があると子ども達が喜ぶはず / 育てていく森を見るのは楽しい / 宝くじ基金などの補助金を利用する / 山の道路工事で不要な木を移植してはどうか(運搬費はかかる) / 木が好きなのが中心になって専門家と一緒に植樹計画をする / 【維】実際に木が育っている様子を見てから次の募集に応募してくる人もいると思う / 実践者である「市民の森」の関係者に協力してもらいたい / 「森を育てる会」のような市民団体をつかって自然や木が好きな住民を中心に活動してもらおう / ▼桜の木【整】桜を楽しむなら多目的広場側が良い / 築山の周りに植えたい⇒桜は虫が付きやすいので他の木と離して植えると間隔⇒詳細設計の段階で専門家に任せる / 色々な種類があるので長い期間楽しめるのが良い / 【維】築山の内側の方が管理しやすいのではないかと⇒新潟県:外側は管理用道路として残る / ▼遊歩道【整】安い小砂利やウッドチップを敷き詰める(芝生の地面を少なくする) / 沿道には低木を使うようにする

プレイゾーン(広場)

▼子どもの遊び場【整】子どもの遊具は残しておきたい / 長岡市のコマランドのような場所ができれば楽しい / 砂場だけでもつくりたい⇒今は衛生上の問題で砂場が減っている / ▼バーベキュー広場【整】整備範囲としては難しいがぜひ計画に入れたい / 必然的にトイレも必要(トイレもきれいに管理したい)

川沿いのゾーン

▼祈念モニュメント【整】中之島側の残地は委員会と連携しているか?⇒新潟県:検討対象には入っていない(補足-中之島側の敷地は「慰霊碑」のため位置づけが異なる)⇒双方が具体的な計画にしないと逆に全体として進まない可能性がある⇒「慰霊碑をつくりたい」という声をあげてはどうか



建物・駐車場ゾーン

▼風の製作場【整】今町と中之島で一緒に作業をすると風20枚分のスペースが必要(約20m四方) / 中之島=9枚広げて一斉に描いている(ほとんどの人が昼勤めのため作業は夜に集中する) / 今町=昼と夜で交互に6枚広げて描いているが12枚分が望ましい(昼間は年配組、夜は昼間努めている人が作業) / 今町と中之島の人が同じ場所で作業しても大丈夫だろうか⇒まったく問題ない / 仮に二階建ての風会館になった場合、製作場は階になるのか⇒多目的利用を考えた場合は物販が階にあったほうが良い

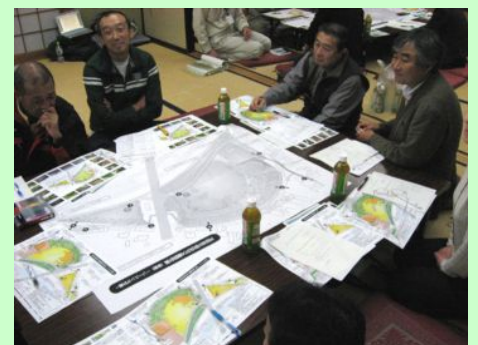
2 グループ

全体共通の内容

▼トイレと照明【整】トイレは絶対に必要である(トイレがないと人が長時間滞在できない場所になる) / 仮設トイレは汚いイメージがあるので人が来ないのでは / トイレがあると街灯も必要になる(全体にある程度必要)

森と散策のゾーン

▼植樹と花壇【整】桜の木の里親制度(記念樹として苗を買ってもらい、個人名を記して植栽する) / 四季を通じて楽しめる樹木を植える(春は桜、秋は紅葉を楽しむ) / 車椅子用の高さの花壇を作る(バリアフリー園芸) / 【維】最初からたくさん植えるのではなく、徐々に増やしていく / 花壇を作って花づくりボランティアを募集してはどうか(お花が満開の時期にはたくさんの人が集まって、写真を撮ったり、お弁当を食べたりできる)⇒花壇の管理は手間がかかるが人々が公園に集うようになる / 見附市のイングリッシュガーデンと連携を図る / 子ども達と一緒に花壇の管理をする(見附市は学校花壇で有名) / 講師を招いて花づくり教室を行う



多目的広場

▼通年の利用【維】観光としてミニ風合戦や風揚げ体験を行う⇒大風でなければ各組のメンバーでも風あげ実演&指導ができる(風が吹かない時期もある) / 定期的に今町・中之島合同の防災訓練や防災学習会を行う⇒毎年、実際にヘリコプターを使った防災訓練を行う(ヘリポートが機能するかを確認) / 冬の使い方を考えることが大切⇒イルミネーションは人が集まるのではないかと⇒雪のイベントは積雪量が減っているので難しい / この場所が地域の大切な場所であると理解する人を増やすことが重要⇒ボランティア活動等で仲間を増やす(例えば、ごみ拾いを続けながら関わる人々を増やしていく)

プレイゾーン(広場)

▼バーベキュー広場【整】バーベキューは人気が出るのではないかと【維】防災力が高まるように炊き出しイベントを行う／▼トイレ【整】この辺りにもトイレが必要ではないか(風会館までトイレに行くのでは大変)／▼子どもの遊び場【整】あまり整備をしなくても、子どもは自由に遊ぶのではないかと



川沿いのゾーン

▼イベント【維】夕日を見る集いを開いてはどうか／川の使い方を考える必要もある

建物・駐車場ゾーン

▼建物の名称【整】「風会館」という名称が良いのだろうか(大風だけの施設に聞こえる)／▼通年の利用【維】4月から6月までは大風作りの場所として活用／風揚げ体験のためのミニ風作り、子どもの夏休み工作教室(地域の中から教えたいという人を見つける)／お祭りの神輿づくりや組み直しの作業場としても利用したい(広い場所がない)／物産販売⇒集客力のあるキーテナントを確保する必要がある⇒農協の協力が必要／地域住民の手作り民芸品を売ってはどうか⇒人形やお手玉など遊び方も一緒に伝えられるような場所に／人前結婚式ができる場所として

三角のゾーン

▼【整】高齢者の利用(グラウンドゴルフ)を考えると近くはトイレが必要ではないかと

3 グループ

森と散策のゾーン

▼植樹【整】宝くじなどの基金を活用して苗木を買ってはどうか／苗木は住民の皆から募金してもらって買うのはどうか／市民の森の木を間引いてこちらに移植するのはどうか(市民の森の木がかなり密になっているので)／最初から密に植える必要はない／【維】植樹はボランティアを募って行う／▼散策路【整】ウッドチップを使う⇒地元の人たちがウォーキングをして踏み固める／あずまや、ベンチなどの休憩施設が欲しい



プレイゾーン(広場)

▼子どもの遊び場【整】小学生が遊べるような遊具のある広場にしたい⇒遊具がなければ人は来ない(親子連れ)⇒見附には子供を遊ばせられるところが少ない(イングリッシュガーデンの遊具は幼児向け)／▼バーベキュー広場【整】あればいいとは思いますが必須ではない／こちら側にも駐車場がほしい

川沿いのゾーン

▼モニュメント【整】対岸の決壊箇所が見える下流側に置くべき／▼植栽【整】一箇所にまとめて最低限の量だけ／▼風合戦【維】臨時駐車場として利用する／この場所で風合戦をすることは現実的ではない(橋を通行止めにならない、駐車場や橋に風が落ちる)

建物・駐車場ゾーン

▼風会館【維】今町と中之島と一緒に何かできるような場にしたい／色々なものがあつたほうがリピーターを確保しやすくなる／商業ベースで考えると農協に入ってもらわないと大変／農協が入ると色々な団体と協力しやすくなる／地域づくり活動の拠点として利用(今町の復興研ではべと人形の復活、ブランド商品開発、散策コースづくりなどを展開中)／風を飾るだけでは人は来ない(リピーターは見込めない)／ミニ風や風ちようちんづくり、風揚げの通年体験⇒風づくり、風揚げの講座を行い地元講師を育成する／年中風と触れ合える場所にしたい⇒実際に揚がる風をつくれる人は少ない(飾り用なら別)⇒ミニ風なら一年中揚げられる／合戦用の大風づくりは約2ヵ月間だが場所があれば通年でつくってくれるかもしれない(合戦以外に依頼される場合もあるそうだ)⇒製作と展示ができる場所にしたい／▼駐車場【整】消雪パイプを入れる予定なのか⇒新潟県:予定には入っていない⇒除雪の山で子ども達に遊んでもらうのも良い／▼道路の位置【整】敷地北側に隣接している民家への配慮が必要(騒音など)／駐車場予定地の南側に通せないか⇒風会館と広場が分断されてしまう⇒そこまで交通量が多いとは思わない⇒今町へと降りていく傾斜がきつくなってしまう⇒道路の位置を移動せずに生垣や植栽などで対応できないか



三角のゾーン

▼【整】水防倉庫が設置されるとなると駐車場とトイレが必要になる／こちら側にも川へ降りられる階段が欲しい(橋をはさんだ下流側には階段がある)／上新田展望台公園とはあえて高低差をそろえなくても一体的な利用は可能／▼【維】グラウンドゴルフは特に施設や設備が必要ないため、他の利用者と競合しないはず／日常的な管理はグラウンドゴルフ利用者が中心となってやってもらいたい



総括と今後の予定

もっとも注目されている風会館（仮称）については、どのグループも風の製作場は必要という結果になっています。また、日常的に風を活用した観光や交流に結びつけるための様々なアイデアも出されました。森と散策のゾーンは、宝くじ基金などの活用、市民参加で植樹や寄付を募るなど、「地域で育てる森に」という共通の方向性が見えました。今回は、維持管理をかなり意識した検討をすることができましたが、委員の皆さんがまじめに楽しく発言している様子が印象的でした。以下の表は、意見やアイデアなどをキーワードとして簡略にまとめたものです。

各ゾーンの計画づくりキーワード表

ゾーン・場所	整備の内容	維持管理・利活用など
全体共通	<ul style="list-style-type: none"> ○トイレの整備が優先（当面は仮設トイレか） ○ある程度の野外照明が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ○芝生の管理にやぎを利用してみる ○学校の行事として芝刈り体験を（親子で）
森と散策のゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ○市民の寄付で植樹を（木のオーナー募集） ○宝くじ基金などの助成を活用 ○実のなる木、雑木の森をつくる ○桜の里親制度 ○他所から不要な木を持ってくる ○散策路には安価なウッドチップを ○桜は広場側に植えるべき（人が集うため） 	<ul style="list-style-type: none"> ○数区画ごとに少しずつ植樹・数量限定など工夫 ○森や木が好きな人の活動グループをつくる ○花壇を核にしたコミュニティづくり
多目的広場	<ul style="list-style-type: none"> ○芝生の代替も視野に（クローバーなど） ○ヘリポートとしての位置づけ 	<ul style="list-style-type: none"> ○通年利用を（ミニ風合戦・風揚げ体験など） ○ヘリコプターの防災訓練イベント（抽選でフライト） ○今町・中之島の合同防災訓練と防災学習会 ○冬の使い方の工夫を（イルミネーションなど） ○ゴミ拾いで地域からの参加の輪を広げる
プレイゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの遊具をぜひ（小学生向けをぜひ） ○過度の整備は不要（子どもは遊びの天才） ○バーベキュー広場は人気になるのでは ○ここにもトイレと駐車場を 	<ul style="list-style-type: none"> ○防災力アップのための炊き出しイベントを
川沿いのゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ○モニュメントは決壊現場が見える場所へ ○木は必要最低限の量だけ 	<ul style="list-style-type: none"> ○夕日を眺めるイベント ○川の使い方を考えるべき
建物・駐車場ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ○今町・中之島で風20枚分の作業場を ○風の作業場は多目的空間 ○物産販売は集客力あるキーテナントの確保 ○「風会館」という名称をもう一度考える ○敷地北側の住民への配慮（騒音対策など） 	<ul style="list-style-type: none"> ○通年利用を（ミニ風づくりなど） ○住民参加の手づくり土産の販売・体験 ○農協の協力は欠かせない ○地域づくり活動の拠点にしたい ○神輿を組むために作業場を利用 ○夏休みの工作教室（誰でも地域の先生）
三角のゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者がグラウンドゴルフ⇒トイレが必要 ○地域の防災倉庫を移設する予定 ○こちらにも川へ下りる階段を 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常的な管理はグラウンドゴルフ利用者がぜひ

次回の第6回で、検討委員会は最終回となります。さらに、整備イメージを具体化するとともに、住民参加型の維持管理の実現をめざした検討を深めたいと思います。行政サイトとしても、基盤整備の予算で足りない部分の検討や両市で整備する範囲についての調整など、様々な課題があります。市民と行政がそれぞれの役割をもって、協働しながら計画づくりを行いますので、今後とも宜しくお願いします。◆第6回検討委員会は、来年1月13日（水）18:30～21:00に開催します。

本件についてのお問合せ先



新潟県長岡地域振興局（地域整備部計画調整課）

〒940-8567 新潟県長岡市四郎丸町 173 番地 2 TEL:0258-38-2614 FAX:0258-38-2627